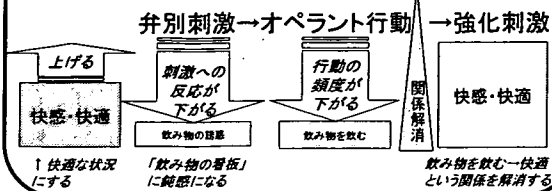


確立化操作「行動」を減らす例

- 飲み放題の映画館で、飲み物の供給を抑えたい場合
「飲み物を飲む」行動を減らす→お客さんが飲みたくない状況にする

夏: エアコンを低く設定(涼しい、あまり喉は渴かない) 飲み物を飲む人!
冬: エアコンを高く設定(暖かい、飲み物はいらない)



刺激統制法 (stimulus control)

減らしたい行動に
しばしば先行する刺激(弁別刺激)を
調整(多くの場合は撤去)する方法

弁別刺激 → オペラント行動 → 強化刺激



取り除く、見えなくする、
聞こえなくする、など

* 三項随伴性の破壊

刺激統制法

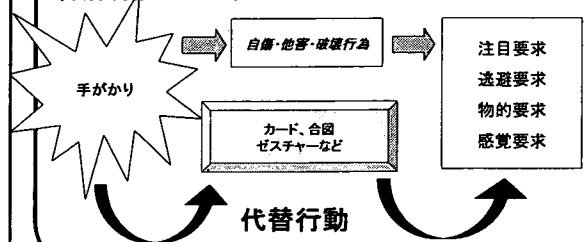
例①: 作業中、窓の外が気になる集中できない。
→窓にブラインドをつける。作業に集中するようになった。

例②: 禁煙が徹底できない
→灰皿を撤去して、気軽にタバコを吸えなくする。

例③: 遊園地内の、ジュースの売上を伸ばしたい。
→遊園地周辺の自動販売機を撤去した。

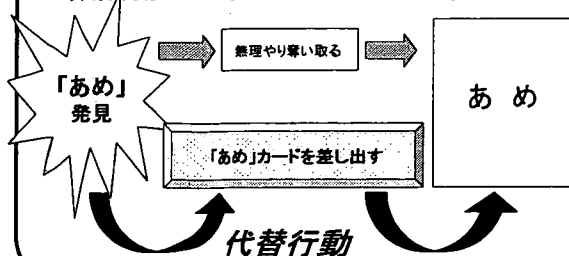
代替行動の分化強化 (reinforcement of alternative behavior)

弁別刺激 → オペラント行動 → 強化刺激



「代替行動」の例

弁別刺激 → オペラント行動 → 強化刺激



他行動分化強化 (differential reinforcement of other behaviors)

- ある一定時間、標的行動が自発されていない時に強化がなされる
- 強化は行動が出現しないことに対して随伴される

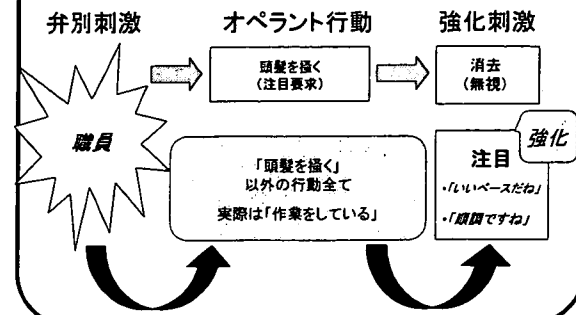
「望ましくない行動」は消去して、
「望ましくない行動」以外の
全ての行動を強化する

他行動分化強化の事例

- 職員を見るたびに、わざと頭髪を掻き、職員に注意されることを通して、人と関わろうとする。



他行動分化強化の対応例

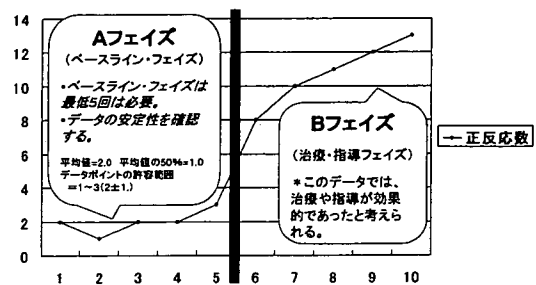


実験デザインの実例

- 単一事例デザインの場合 (ABデザイン)
一人の行動について、「指導」に効果があるか調べる。



実験デザインの実例 ABデザイン



援助計画の立て方

- 1、行動(標的行動)を決める。
- 2、課題分析する。
- 3、行動連鎖(チェイニング)を決める
- 4、プロンプトのレベル、タイミングを決める。
- 5、強化子を決める。
- 6、強化スケジュールを決める。

*この後、誰が、いつ、どこで、いつまで、いつ評価するのか決める。

援助プログラムの実際①

「作業中、ため息ばかりで作業に集中できない」
(22歳男性 学習障害・クリーニング作業班)

- タオルたたみや包装など、作業は一通り習得している。
- ため息をつきながら、作業の手をとめるなど作業に集中できない。
- 面談では「作業は好きだが気分がのらない時がある」と言う。
- 近くに支援員がいない時はとても集中しているが、支援員の顔を見るととたんに肩を落とす様子が複数の支援員から目撃されている。
- 好きなことは、人との会話、プロ野球の話題など。
- 以前、大手量販店に勤務していたが、勤務中の同僚との雑談が問題となり、店長との関係が悪化し、その後退職した過去がある。
- 再就職への意欲は高く、夢はかつて在籍した量販店のライバル社に再就職し、かつての上司である店長を見返してやることだと言う。

援助プログラムの実際①

望ましくない行動 の ABC 分析	A: 支援員を見つける。 B: ため息をつく (作業の手を止める) C: 支援員に話し掛けられる。 人と関わることができる (注目要求)
望ましい行動	作業に集中する。 (作業の手を止めない)
強化子	(作業に集中していたら、他行動分化強化) 「お!こんなに出来てる!」 「うまくなってるね!」と声かけ。
その他の援助	・作業中のため息をつく場合は無視 (消去) ・強化子はささやくように (適度な強化子) ・日頃から面談や雑談をする。(確立操作)

援助プログラムの実際②

肥満に悩み、就職活動に消極的なYさん (20歳男性 広汎性発達障害)

- ・身長160cm、体重120kg(自己申請)
- ・作業中疲れやすく、ひざが痛む事が多い。
- ・友人からの「焼き豚」の一言をきっかけに、自分の体格に深刻に悩む。
- ・食事は、野菜以外は夢中になって食べる。
- ・運動は嫌う。アトピーの影響から汗をかくことをとても嫌う。
- ・電車に乗ることが大好き。電車の定期券にあこがれている。
- ・寄り道は不安。目的地に着くまでは、やや緊張している。
- ・「早く就職したいが、こんなに体力がないと無理だ。社則が守れない」と悲観的な発言が目立つ。

援助プログラムの実際②

● 状況

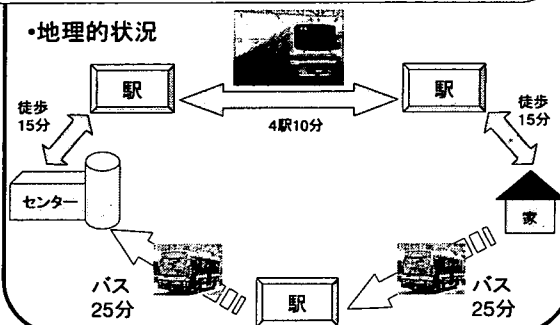
- ①「運動」が嫌い。「歩く」機会がない。
「身体を動かす」ことに自信がない。
- ②夢中になって食べている。
昨日、いつ何を食べたのか、わからない。

● 介入

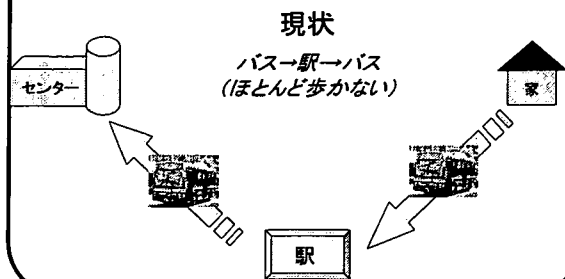
- ①標的行動「歩く」(低頻度行動)
強化子「電車に乗る」(高頻度行動)
 - ②食事内容のセルフコントロール
- プレマックの原理を活用

援助プログラムの実際②

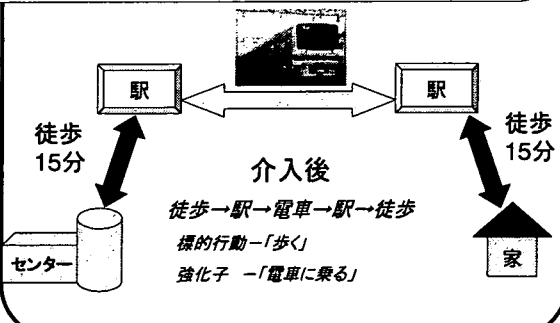
・地理的状況



援助プログラムの実際③



援助プログラムの実際②



援助プログラムの実際②

● 食事チェック表(トークン・エコノミーの応用)

	月	火	水	木	金
朝	ごはん 味噌汁 ハンバーグ ナポリタン	ごはん 味噌汁	ごはん 味噌汁 焼き魚 味噌		
昼	焼きそば 冷奴 卵とじスープ 梨	高脂肪 ・炭水化物は 太りやすい、という 情報を提供	ごはん 味噌汁 から揚げ 野菜サラダ	目標達成できた 場合は○をつける。 ○が8割ついた場合、 体験実習を「強化子」と して設定する。	
夕	ごはん 味噌 玉子スープ(3 杯)	たんぱく質 ・食物繊維の多い 食品をリストアップ し、目標を設定	コーン てんぷら 海草サラダ スイカ		
夕食後	みかん(2個) お菓子(2個) せんべい(5枚) ひと口ゼリー(3個)	こんにゃくゼリー 果物(2個)	味噌こんにゃく 炒飯		

援助プログラムの実際②

介入後の状況

- 徒歩時間の増加(通勤手段変更が定着)
「毎日電車が見れて、嬉しい」と報告あり。
 - 運動に対する「自己効力感」の改善
運動プログラムに積極的に参加する。
時刻表を暗記「○分の普通電車に乗る」と言って走る。
- * 2年後、体重が120kg→90kg台に減量、との自己申請あり。

参考文献

- 小林重雄監修
「応用行動分析学入門」 学苑社 1997
- 坂野雄二監修
「実践家のための認知行動療法テクニックガイド」
2005
- 加藤哲文・大石幸二編著
「特別支援教育を支える行動コンサルテーション」
学苑社 2004

自閉症の行動障害と 対処法

西脇俊二
2007.9.25.

【代表的な特性】その1

①社会性の障害

- ◆ 対人関係や社会的相互交渉の障害
 - ・視線を合わせたり、顔の表情、身振りで相手と関係を結ぶことができない。
 - ・仲間関係が作れない。
 - ・喜びや楽しみを他人と共有できない。
 - ・他人の感情や意図を無視したり、反応が乏しい。
 - ・模倣しようとしない。
 - ・親を求めない、平気でどこかへ行ってしまふ。

【代表的な特性】その2 ②コミュニケーションの障害

- ◆ 話し言葉の遅れ
- ◆ 身振りも乏しい
- ◆ エコラリア
- ◆ 人称の逆転
- ◆ 疑問文による要求
- ◆ 同じことを繰り返し言う(コマーシャルなど)
- ◆ 独特の変わった喋り方
- ◆ 会話能力があっても、会話を始めたり継続することが困難
- ◆ ごっこ遊びや見立て遊びができない
- ◆ 高機能で言語能力が向上しても冗談や比喩がわからない
- ◆ 双方向の交流が出来ない

【代表的な特性】その3

③限定された興味、反復常同的な行動パターン

- ◆ 想像力の障害とそれに基づく行動の障害
- ◆ 同一性保持行動、こだわり。特定のものへの異常な執着。
- ◆ 習得したスキル、知識を新しい場面に応用(般化)する事が困難。
- ・ 行動は、大部分が日課や習慣などルーチンや同一性保持の要求に基づいており、自発的、創造的なものは非常に乏しい。
- ・ 行動の多くが固執的で、新たな行動に導きにくい。
- ・ 自ら行っていることの意味を理解しないまま機械的に繰り返していることも多い。
- ・ 見えない世界に意味を持たせることが非常に苦手。
- ・ 不安から逃れようとして、自然に身につけた固執・強迫・儀式的なパターン化された「こだわり行動」に執着しようとする。

これら①②③の特色が3歳以前に認められる。

【その他の特性】 ④認知の障害や不均等性(その1)

- ◆ 言葉や環境、物の意味・正しい使い方等の認知が障害。
- ◆ 意味の理解や因果関係、概念化は特に困難。
- ◆ 聴覚的認知<視覚的認知
- ◆ 話し言葉<文字や絵
(見るとわかる)
- ◆ 反響言語や独り言
- ◆ 不快音や恐怖の音
- ◆ サバン能力

④認知の障害や不均等性(その3)

- ・ 個々の事物を経験上の類似によって結合、分類、蓄積出来ない。(信号機)
- ・ 抽象能力の初歩的レベルの発達さえ困難。
- ・ 自閉症者の記憶は色々な物が混じりにくい。
(即ち、記憶は正確。しかし、色々な記憶を混ぜて抽象化するのは困難)
- ・ 概念を持つことが困難。
- ・ 全体の概念が見えないために、最優先事項なども理解できず、細部に拘る。
(教室では何をするかということよりも、机や椅子の並び方が気になり、窓を閉めること、コンセントを抜くことに強い関心や拘りを示す)

行動障害

「強度行動障害」(1985年)



行動障害

(自閉症、知的障害、てんかんの行動問題、
ADHD...)

強度行動障害

- ①自傷 ②他傷 ③こだわり ④破壊
- ⑤睡眠の乱れ ⑥食事関連の障害
- ⑦排泄関係の障害 ⑧多動 ⑨騒がしさ
- ⑩パニック ⑪粗暴

行動障害の意味①

例えば「自傷」
○やりたくない作業
↓
自傷
↓
作業の中止
↓
負の強化(随伴的結果)
↓
自傷の頻度増加

行動障害の意味②

- 「自傷」
- ①自己刺激
 - ②社会的機能
 - ③自己確認のための刺激

自閉症を合併した知的障害に 多い行動

- ①自己刺激行動(常同行動)
 - ・フラッピング、・手かざし、・耳抑え、
 - ・ロッキング、・物を回転させる、
 - ・自転
- ②自傷

自閉症に多い行動

- ・儀式的ルーチン化
- ・奇妙で限局的な興味・関心
- ・常同行動
- ・同一性保持行動
- ・言葉による儀式化

自閉症の特異な体験

①過敏性

- ・「高機能者といえども、少なくとも幼児期は混沌とした恐ろしい世界に暮している。」
- ・ 耐え難い騒音(掃除機、泣き声)と異臭に満ちていた。何もかも恐ろしく、時には母の存在すら恐ろしかった。
- ・ 教室にいるときはいつも自分が粉々にされてしまうのではと感じていた。

②全ての思考を視覚的なイメージの操作によって行っている。(テンブル・グランディン)

- ・ 「優しい」という言葉を理解するとき、それに相当する視覚的映像に置き換え、翻訳を行う。

感覚の過敏性と鈍感性

- ・ 光や音、触覚、臭い、暑さへの過剰反応。
- ・ 痛みへの鈍感さ。
- ・ 味覚の過敏さや鈍感さ
(偏食や異食、カフェイン中毒など)

感覚器系の場所と機能①

- ・ 触覚; 肌(口、手、陰部)～触感、圧迫感、きめ、堅さ、
～ 柔らかさ、鋭さ、鈍さ、暑さ、
～ 冷たさ、痛さ
- ・ 前庭感覚; 内耳 ～空間での身体の位置、自分自身
～ や周りにある物が動いているかど
～ うか、動きの速さや方向
- ・ 固有感覚; 筋、関節～体の部分の位置、動き

感覚器系の場所と機能②

- ・ 視覚; 網膜～物や人についての情報を送る。
- ・ 聴覚; 内耳～音に関する情報を送る。
- ・ 味覚; 舌～味の違いに関する情報を送る。
- ・ 嗅覚; 鼻腔～においの違いに関する情報を送る。

感覚刺激に対する行動や感情の反応①

多くの自閉症の人たちの状態その1

- ・ 不安がち
- ・ 失敗すると爆発する
- ・ 挫折に弱い
- ・ 他人からの批判に敏感
- ・ よく泣く
- ・ 計画や見込みの変更についていけない
- ・ 物事を効率よくやり遂げることができない
- ・ 身振りや表情を正しく読み取ることができない

感覚刺激に対する行動や感情の反応②

多くの自閉症の人たちの状態その2

- ・ 精神的に成長しにくい
- ・ 友達ができにくい
- ・ 日常の出来事に対して他の子よりも保護が必要

感覚刺激に対する行動や感情の反応③

多くの自閉症の人たちの状態その3

※一生懸命やっているにも係わらず、物事を達成することが出来ない。

※大人、先生が自分のことを喜んでいるのか、怒っているのか分からない。

※環境に変化が起きると、すでに持っていた不安感が強まり、泣いたり、叫んだり、かんしゃくを起こして

不満を表すか、引きこもる。

※友達が欲しいけど、彼らの社会言語が分からない。

感覚刺激に対する行動や感情の反応④

・触覚の問題：過敏さ→触覚防衛

鈍感さ→触覚による探索、感覚刺激

・前庭感覚の問題：

過敏さ→動きに低い耐性

鈍感さ→過剰に揺する

感覚刺激に対する行動や感情の反応⑤

固有感覚の問題：姿勢の悪さ、前屈み。

ぶらぶら歩き。階段を上るのが苦手。
シャツを被るのが苦手。重たがる。
疲れやすい。

視覚の問題：捜し物ができないときと非常に得意なとき。
視覚の過敏性。

感覚刺激に対する行動や感情の反応⑥

聴覚の問題：

過敏さ→騒音の拒絶

鈍感さ→人の声に無反応

味覚の問題：一般の人が食べるようなものを嫌う。
ある特定の味のものしか食べない
偏食家

感覚刺激に対する行動や感情の反応⑦

嗅覚の問題：

様々な微細なにおいに対する過敏さ

⑦ファジーなことは分からない。

規則的なこと、決まり切ったことを好む。

- ・ 定式化した会話(生年月日はいつか？、番組表クイズ)、道順のこだわり。
- ・ 「ちょっとまって」「すこし下さい」「いつまでがおはようか？」が分からない。
- ・ はっきり見える物、機械的なこと、規則性の明確な事が分かりやすい。
- ・ 曖昧なところのない「事実」にしか興味が無い。
- ・ 「おはよう」、「こんにちは」の時間的切り替わりも厳密な切り替わり時間が必要。
- ・ 機能レベルの低い自閉症者に対して我々が日常的に不用意に与える曖昧な情報は、こちらが期待したような意味を持って伝わってはいない。
- ・ 「だめ」、「あとで」、「がまん」等、我々が急場ですぐに禁止や指示は自閉症者には理解されておらず、混乱や不安を与えている。

- 一つの事に関心が強く集中しやすい。同時に複数の物に関心を払えない。
- ストーリーが追えない。爆発、衝突、転倒、服の色などだけに興味。
- ダンスや体操の一部だけを模倣。
- 関心が一つの事にしか向かないという特性が自閉症者のコミュニケーションを困難にしている。
- 我々の基準で考えると自閉症者は出来ないことが多い。
- 多動性・転導性と固執性・執着性、同時総合機能、儀式性と強迫性、選択と決断。
- 転導性；次々に関心や注意の向くところが移り変わる。
- 転導性がなくなると固執・執着となる（共通点はsingle focus）
- 選択；同時に複数の物を見ることが出来ないと言ふことは出来ない。

- ・ 計画性や企画性の困難、時間感覚の混乱
- ・ 順序が変わると混乱
(〇〇して次に△△して...が覚えられない)
- ・ 衝動的に思いつきで行動

- ・ 行動の適切、不適切の判断ができない
(周囲を遮断して自分の世界)
- ・ 怒りやおそれ、いらだちの制御が困難で、衝動行為やパニックにつながりやすい
- ・ コミュニケーションの障害がそれを増幅する
- ・ フラッシュバック

直接の関わり
 エクスポージャー不安 ← 本人 ← 他者
 ↓
 ・認知力低下
 ・感覚の異常
 ・あまのじゃく

- 7%—ことば(意味)「何」
- 93%—声の大きさ
 - 声の強さ
 - 表情
 - 動作

「ナニ？」
「ナニ！」

- ・ 要求や拒否は言えるが「悲しい」「疲れた」「寂しい」が言えない。
- ・ 相手の感情や都合は理解しにくい。
- ・ 心の世界を理解したり、共感性に乏しい。
(マインドブラインドネス)

Comic strip conversasion

感情を色で表す漫画

緑: 良い考え、幸せ、仲良し
赤: 悪い考え、いじめ、怒り、仲良くない
青: 悲しい、不快
茶: 快適、居心地がよい
紫: 誇らしい
黄: こわい
黒: 事実、わたし達が知っていること
橙: 質問
色々の組み合わせ: 混乱

感覚についての評価法

- ・感覚プロフィール
- ・感覚プロフィール短縮版
- ・SIPT(感覚統合と運動企画のテスト)
- ・JSI-R
(Japanese Sensory Inventory Revised)

- ・事例:よくみられる行動
- ・解釈:その行動が起こる理由を、感覚に関連づけて考えた説明
- ・指導:感覚的サポートをする指導案

事例・解釈・指導①

【トラブルを起こしやすい】

事例	解釈	指導
ぎこちなく、失敗をおこしやすい。よくものにぶつかったり、壊したりする。	周りのものに対して自分の位置を判断するのが難しい。	・重さのあるチョッキや、足首や手首に重しをつけて固有感覚刺激を補う。 ・子どもに周囲の動きを視覚的にとらえるように指導。

事例・解釈・指導②

事例	解釈	指導
物事をするのに突発的だったり、あわてているように見える。(安全性を考慮しない)	・物事の計画を立てたり、上手く順序立てて行うことが難しい。 ・不快感を感じるものや作業にかかわるのを避けている。	・1つの作業を段階に分け、1度に1つの段階をやっていく。 ・誰かに作業のやり方の手本を示してもらう。 ・作業のそれぞれの段階に視覚的補助を加える。 ・1つの作業が終わったときだけでなく、途中の1つ1つの段階が終わったときに褒める(強化) ・触覚の過敏性に配慮

事例・解釈・指導③ 【注意力】

事例	解釈	指導
ボディランゲージや顔の表情がよみとれない	・他人の体の部分や動き、顔に視覚的注意を向けるのが不快 ・体の動きや顔の表情の多くの変化を処理することが困難 ・意味をもつ視覚的情報とその背後の細かな視覚的背景を見分ける能力に問題あり	・注意を促すのに聴覚的合図を送る ・顔の表情、特定の体のポーズや身振りの意味を教える。 ・注意をそらせる刺激を少なくする ・体が直に触れるのを避けるために距離をとろうとする必要性を尊重

事例・解釈・指導④

事例	解釈	指導
ボディランゲージや顔の表情がよみとれない	・強く集中している関心事や注視によって周りにいる他の人への認識力が抑えられる ・体が直に触れるのを避けるために他人に対してとる距離が身振り、表情を知覚するのを妨げていることもある ・聴覚のからの情報に頼って行動している	・言葉がけをして安心させた後にこちらの合図を見逃さないように注目させる ・言葉で意味を伝えながら、表情、身振り、を用いる ・指示を与えるときに非言語性の合図を使っているか注意する ・一度に成る可く少ない感覚様式を使う

事例・解釈・指導⑤

事例	解釈	指導
他人と目を合わせることができない	・人を直接見るよりも周辺視野で見え方が不安がない ・見ることに聞くことを同時に行うのが困難 ・自分の能力に自信がない ・動きのある活動を行うときは、人ではなくその傍にあるものを見つけていた方が安心して上手にできる	・状況や事情により目を合わせるのを義務づけない ・近寄り過ぎずに子どもの視野に入る位置にたつ ・視覚的注意を促すよう、最小限の聴覚的または軽い接触的合図を出す ・見分けたり、順番を交代したり、人と物や情報をやりとりする活動をしていく

事例・解釈・指導⑥ 〔集団での行動〕

事例	解釈	指導
食堂で種類をおこしたり、叫んだり、自分をコントロールできない	・反響する音が大きかったり、騒がしかったり、人が動き回っていたり、強いにおいがしている環境ではストレスがたまりやすい。	・人が少なく空いている早めの時間に食堂に行けるようにする ・教室や他の刺激に少ない環境で食事が出来るようにする ・食堂にいる時間が短くなるようにする ・子どもが自分の食事を用意するのを手伝う

事例・解釈・指導⑦

事例	解釈	指導
特定の服を嫌う	・特定の生地や材質が不快な刺激を与える ・袖の長さやウエスト部の仕上げなど、細部が不快感を与える。 ・ナイロンやコーデュロイの生地が歩くときに立てる音を嫌ったりする	・可能な範囲で心地よい生地の服を用意 ・ブラッシングプログラム ・ローションを塗ってマッサージ ・タオルで強くマッサージし、特定の生地に対する抵抗感を減弱して新しい生地や服を試す ・襟のタグを切り取る ・無香料の洗剤を使用

事例・解釈・指導⑧

事例	解釈	指導
友達をつくるのが下手	・未熟な運動企画技能が集団行動やゲームなどに上手に参加することを困難にしている ・予期しない接触に対する過敏さが他人には理解しがたい反応をしめす ・身振りや表情を見逃したり、意味を理解しない	・休み時間に役割がありやることがはっきりした活動をする。 ・思わずぶつかってしまったときの、社会的に相応しい「台詞」を練習。 ・個人やグループへのアプローチ法やの指導 ・身振りや表情の見分ける練習をする

事例・解釈・指導⑨

事例	解釈	指導
友達をつくるのが下手	・独り言や、その他の不安を和らげようとする行動が、会話の妨げとなる。 ・限られた興味やものへのこだわり、強迫的行動のため、周りの人や物と接するにも感覚的な余裕がなく遊ぶ機会をなくす	・目立たないように手でいじることが出来るものを与え、視覚的注意を向けられるようにする。 ・仲間はずれにならないように「給食時間の仲間」「遊び相手」等、決められた友達と付き合わせる ・子どもと健全なクラスメートのプレーグループを作り、感覚的運動活動をする

事例・解釈・指導⑩

事例	解釈	指導
わずかな音や視覚的変化に気が散る	・これらの刺激は許容を越えており、集中するのが難しくなる	・視覚的、聴覚的刺激を最小限にする ・クッション等を置いた静かな場所を提供 ・気をちらすものから離れた場所に子どもを座らせる ・状況が変わる予定を書いた視覚的サポートなどで、校内アナウンスや来訪者などに対し予め準備させておく。 ・視覚を遮る衝立や囲い ・テストやワークシート、指示が終わった後にヘッドホンや耳栓をつけさせる。

事例・解釈・指導⑪

事例	解釈	指導
整理整頓が苦手。教材をよくなくす。	・関連した刺激に集中するのが難しい ・机の中の必要なものと他のものを見分けるのが難しい	・色分けしたり宿題帳を作ったりして視覚的工夫をする ・引き出しに仕切りを作り、教科書などを分類して収納 ・机の中や本棚を整理して、教材が常に見えるようにしておく ・教材をトレーに乗せる ・プリントを学校と家の間で持ち運ぶことが出来るバインダーを科目別に用意し、「宿題」とはっきり書く。

事例・解釈・指導⑫

事例	解釈	指導
字が汚い。線の間に字が書けない	・どのように体を動かせばよいか、続いてどんな動作をすればよいかを企画するための適切な感覚入力がない。 ・鉛筆の感触が正しい鉛筆の持ち方を邪魔する ・創造的文章は書き写すことより困難	・腕立て伏せや四つん這いになり後ろに足を交互に蹴る等微細運動作業の前に粗大運動をさせる。 ・手の力をつける様な活動 ・粘土に物を隠して取らせる。片手でも行うと難易度大。 ・筆記の指導中、動きを大切にする。大きな字を空中や黒板で練習させる。

埼玉県発達障害者支援センターにおける 関係機関との連携と就労支援

2007.10.17

埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」
センター長 藤 平 俊 幸

発達障害者支援センター

- 全国の発達障害者支援センター54ヶ所(平成17年8月)
 - 都道府県、政令指定都市に各1ヶ所設置予定(定員4名)
- 埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」
 - 平成14年10月自閉症・発達障害支援センターとして事業開始(埼玉県の委託事業)
 - 平成17年4月、発達障害者支援法の下「発達障害者支援センター」へ名称変更(対象範囲の拡大)
 - 目標は2次的、3次的支援を目指す
自閉症スペクトラムなど発達障害に関わる支援者の研修や相談の事業へ
 - 目標の背景
埼玉県の人口 700万人超
センタースタッフ 5名(平成19年度より埼玉県単独で1名増)

埼玉県発達障害者支援センターの事業

- 相談支援
 - …全般の相談、来所・電話・E-mailでの相談
- 発達支援(相談)
 - …個別療育プログラムの作成と作成補助(機関連携)
- 就労支援(相談)
 - …カウンセリングモデルの支援、直接支援は機関連携
- 普及啓発及び研修
 - …一般啓発と支援技術獲得のための研修の実施
- 調整会議等
 - ケース会議・機関コンサルテーション・調整会議の実施
- その他
 - 相談支援事業者への巡回指導(平成19年度新規)
 - 児童・思春期精神科医による専門相談支援事業(職員対象:新規)

平成18年度の事業実績から (相談・発達・就労支援)

(実人数)			(支援件数)		
事業	H17	H18	事業	H17	H18
相談支援	467	556	相談支援	1131	1116
発達支援	14	17	発達支援	20	41
就労支援	5	17	就労支援	16	49
合計	486	590	合計	1167	1206

研修及び普及啓発

①研修

研修種別	コマ数	参加人数
一般研修	2	419
連続研修(発達期)	5	379
連続研修(成人期)	5	164
指定研修	4	166
専門研修	3	69

②普及啓発、講師派遣(55件:4000人強の参加者) 発達障害の理解を中心とした研修など

相談者の内訳(平成17・18年度 相談者数)

年齢別(実人数:人)	H17	H18	障害別(診断別:人)	H17	H18
幼児期(就学前)	82	80	自閉症	123	121
学齢期(小学生)	112	114	高機能自閉症	16	28
青年期(12歳~18歳)	97	118	アスペルガー症候群	70	70
成人期(19歳以上)	173	267	広汎性発達障害	40	31
不明	22	11	高機能広汎性発達障害	26	33
合計	486	590	ADHD	17	29
			LD	5	9
			その他の診断	33	24
			未診断	126	218
			不明	30	27

相談人数前年度比 121.4%(H18)
H17 18才以下59.9%・19才以上35.6%
H18 18才以下52.8%・19才以上45.2%
H18年度総支援件数 1206件

「相談支援」の対象者別件数

相談の依頼者	支援件数
家族・親族	612
本人	303
支援機関 保育（幼稚園）・療育	6
保健所・保健センター	8
教育期（小学校～大学）	50
成人期（施設等）	21
企業	1
医療機関	15
行政	14
生活、就労支援センター など	86
（支援機関 計）	201
合 計	1116件

相談支援の主訴（支援件数）

主訴（一回の相談につき、一点のみで記載）	（件）
情報提供（診断・療育・就労支援・施設等の機関紹介）	H18 178
家庭生活（家庭療育・余暇・不適応行動）	248
健康・医療（自閉症ではないか、告知後の不安、不眠、薬物療法等）	274
教育（学校での不適応・教育内容）	149
療育について（療育機関での療育内容・方法・不適応行動）	7
進路相談	83
自立支援（福祉施設での自立訓練）	33
就労について（就労移行支援・就労継続支援）	82
その他	62
合 計	1116

支援年齢別に必要な機関連携

- 保健センター（保健所）
- 児童相談所
- 保育・幼児教育・療育機関
- 教育（小中高校、特別支援学校、大学・・・）
- 生活支援センター（相談支援事業者）
- 就労支援機関（職業センター、就業・生活支援センター、就労支援センター）
- 医療（小児科、精神科、一般医療）などの地域機関

機関連携の取り組み①

- 発達障害者支援センター連絡協議会
 - 障害者福祉、児童相談所、特別支援教育、雇用対策、福祉保健総合センター、保健センター連絡協議会、埼玉労働局、埼玉職業センター、リハビリテーションセンター、市、福祉協会
- 他機関の連絡協議会等の参加
 - 就労支援センター連絡協議会
 - 広域特別支援連携協議会
 - コーディネーター連絡協議会（生活支援事業）
 - 自立支援協議会（一部の市）

機関連携の取り組み②

- センター事業からの取り組み
 - 研修による支援者への啓発
 - 相談事業からの個別ケースを通じた連携
 - 地域巡回指導（平成19年度新規事業）
- 顔を合わせての機関連携の重要性
 - 現状においては、支援を希望する方・ご家族を通じた支援者・支援機関の連携が効果的と考える（二次相談、個別の調整会議等）

個別機関とのモデル事業等

- 療育機関
 - 市の療育機関とのモデルケースを通じた連携（H18～）
 - センターにおける療育モデル事業（H19～）
- 教育機関
 - 市の教育センターへの連続研修、事例検討（H17～）
 - 特別支援学校への研究協力
- 就労機関
 - 就業・生活支援センターにおけるモデルケースを通じたコンサルテーション（H17～）
- 医療機関
 - 埼玉県立医療センターにおけるケースカンファレンス（H17～：職員の研鑽を含め）

機関連携における課題

- センターの開所時から
 - 県行政及び保健・福祉機関の連携の難しさ
 - 福祉と教育の連携の難しさ
 - 発達障害に関する情報の広がりによる理解と誤解
- 市町村、支援機関の対象範囲など
 - 3障害対応の支援施策と障害手帳なしの支援
 - 発達障害に関する理解の不足、情報の混乱
 - 市町村による発達障害者支援に向けた温度差
 - 地域資源の少なさによる支援の難しさ

支援体制整備の取り組み

- 県行政と市町村支援機関、親の会等による支援ニーズの把握
 - 埼玉県発達障害者支援体制整備検討委員会における共通課題と対策、共通言語の拾い出し
- 市町村
 - センターの地域巡回指導における市町村への情報提供と現状の把握
 - 共通理解、共通言語の提案
- それぞれの関係者の関心と機関全体のスキルの向上が連携の鍵

成人期・就労支援について

「相談事業」から見る成人期支援

- 成人期の相談増加について
 - 就労を含めた生活に関わる相談
 - 診断、精神状態等に関わる医療ケア
 - 施設など支援機関においての不適応など
- 就労支援に関しての対応
 - 埼玉職業センター、就業・生活支援センター、市町村就労支援センターとの連携
 - カウンセリングモデルによる支援

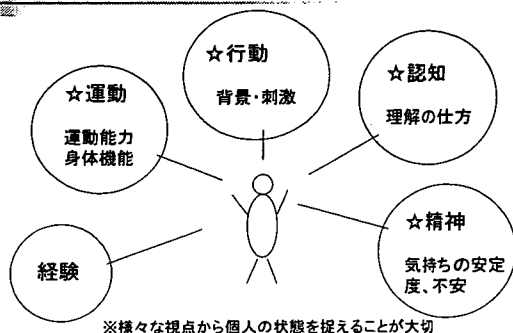
埼玉県の就労支援機関との連携

- 直接的な支援に向けた連携(就労支援機関)
 - 障害者職業センター(職業評価、相談)
 - ジョブコーチに対して発達障害に関する研修協力
 - 就業・生活支援センター
 - ケースを通じた連携モデル(1ヶ所)
 - 市町村就労支援センター
 - 個別ケースの相談など
- 就労支援センター連絡協議会(県)
 - ジョブコーチ養成セミナー等への協力
 - ※発達障害者の支援に関して
 - 相談受付については手帳のあるなしに関わらず支援の方向を示唆

就業・生活支援センターとの連携モデル

- 主にHPDD圏の行動の理解、働きかけの整理のための助言など
 - 大学卒のAS診断の方の行動(発言)の捉え方と就労への導き方
 - HPDD診断の方の就労と生活、医療のすり合わせ、母親と本人の相談に関わる助言
 - PDD診断の方の特例子会社の就労についての行動確認
- 就労に向けた具体的な働きかけ、プログラムについては機関担当者にお願ひし、モニタリング及び必要に応じ再調整を実施

支援に向けた気になる行動の理解



※様々な視点から個人の状態を捉えることが大切

自閉症圏の苦手さと支援

- 自閉症の診断(三つ組み:3歳未満の発症)
 - 社会的相互交渉の質的障害、コミュニケーションの質的障害、興味や関心の狭さと反復性
- 背景にある苦手さとあわせ持つ苦手さ(支援に向けて)
 1. 情報の取り方(中枢統合など)
 - ・ シングルフォーカス、アナウンス理解の難しさ、モノトラック
 2. 企画・計画能力(実行認知)
 - ・ 活動の順序だて、きっかけの苦手さ
 3. 感覚異常や過敏等
 - ・ 聴覚、触覚、人との距離
 4. 運動機能や身体機能の未熟さ
 - ・ 歩き方、姿勢などの粗大運動
 - ・ 手指、顎や咽頭、眼球などの微細運動
 - ・ 体温の調節、過緊張などの身体機能
 5. 特異的な記憶等と自傷、他害、破壊などの行動障害
 7. 二次的症狀(睡眠、不安、強迫性、気分障害など) など

他の誤解されやすい行動

- 特異的に見える表現、不安回避行動
 - 常同的行動(ロックンロールなど)
 - 感覚刺激行為
 - 独り言
 - 奇声・孤立的行動
- 集団活動での違和感(感情受容・表出の苦手さ)
 - 表情やジェスチャーでの受容・表出の難しさ
 - 方言や感情起伏を表す言葉の苦手さ
 - 適切に表現できない、又は過剰になる
- 字義通りの反応、真面目さ
 - 言葉通りの行動やコミュニケーション
 - 全力(過緊張)で行うこと

就労相談担当からみる高機能発達障害者の就労に向けての課題

- 企業側の理解と体制作り(の働きかけの必要性)
 - 障害の理解
 - 障害者手帳がない人へのサポートの意識と体制
- 就労支援者の意識の向上とマンパワー
 - 何に困るのかを知ること、苦手さへの認識
 - 継続サポートの必要性と人員の不足
- 本人の課題(相談)例
 - 頑張っているのに理解してもらえない
 - 働かなければいけないことは分かっているが、何ができるかわからない
 - 「できること」と「やりたいこと」の違いが課題となる

ご本人の課題から支援に向けて

- 頑張っている姿、困っている姿を知ること
 - どのように頑張っているのかを知ること
 - 苦手さの背景を知ることから考える
- 何が適しているのか、何ができるのか
 - 働くことのイメージのしにくさに対して
 - 働く機会、職域に対して
 - 情報の多さと本人自身の理解に対して

知的障害のある自閉症等の支援と高機能圏の支援

- 知的障害のある自閉症者の支援
 - 環境等を工夫した、システムチェックインストラクションなどのジョブコーチ支援の捉え方
 - 工程の細分化と得意分野の仕事の提供
 - 高機能圏の支援
 - 知的障害等のこれまでの支援方法の応用
 - 不安に対する支援
 - 苦手さの見え難さ→個人により多義に渡る可能性
 - 機能的な苦手さへの配慮
 - 生活経験から得られた情報の整理
- ※支援スキルについては課題

就労支援について

1. 得意なところを生かす考え方
2. 就労イメージへの支援
3. 企業(従業員)との間に立つ役割の必要性(ジョブコーチ)
4. 職域の開拓など
5. 苦手さへの配慮

1. 就労の条件(準備)

- 従来型(訓練主義)
 - 就労の条件を設定しクリアできたら進める
例えば
挨拶ができる・言うことを聞ける・一定時間継続した仕事をする・(細やかな)ルールを守る・
- 本人の状態を優先
 - 本人のできる仕事を行う
 - できないところは補う

2. 就労のイメージ

- 教育期から社会へ向けたトランジション
 - 具体的なイメージの難しさ
 - 社会的な情報から得る混乱
- 相談者の共通項として・・・経験の不足
 - 学生時代のアルバイト経験などの少なさ、又は失敗経験
 - 苦手さを持つ方の働く経験を得る機会の不足

3. 職場と本人の間に立つ(ジョブコーチ)

- 企業のニーズを尊重
 - 企業ニーズに合わせなければ就労支援は入り口で閉ざされる
- 本人の可能性と職場のニーズを調整
 - 企業のニーズと本人の力量をうまく調節することは支援者の醍醐味
- 職場に良き理解者を育てる
 - はじめのジョブコーチの対応(利用者に対する)が勝負になることが多い

ジョブコーチの支援

- 本人の適正→聞き取り、評価、経験を通じて
- ジョブマッチング→希望と適正を考慮して
- 職場実習、経験
- ジョブトレーニング
- ナチュラルサポート、フェイディング
- 継続(訪問)支援・・・モニタリングと再計画
- (生活サポートとの連携)
- 退職(それ以降の生活への引継ぎ)
- ※ 長期的な支援の必要性

何を支援するかの検討例 ①

- コミュニケーションの支援
 - 面接・・・事前に情報の整理(リハーサル)
 - 何時、どのタイミングで伝えるか(リマインダー)
 - 字義通りの反応に留意(細分化)
 - コミュニケーションカードなどの持っているスキルの利用
- 働きかけ(新規ごとは1対1で伝える)
 - まずは全体の指示に反応できているか確認
 - 言語と視覚指示
 - 言語提示 短く本人に分かりやすい指示、肯定的に
 - 視覚提示 文字(指示書等)、具体物、絵や写真の利用

何を支援するかの検討例 ②

- 計画(順序だて)、時間と場所の支援
 - スケジュールを確認(時間の構造化)
 - ワークシステムを整理(仕事・環境の構造化)
 - 指示書等の利用(工程の細分化)
- 過敏さには環境も支援
 - 入りやすい刺激に留意し刺激の少ない環境で対応
- 意欲の低下をさせない
 - 集中できるもの、評価されるものを見つける
- その他支援
 - 「人間関係の良好さ」(継続支援に必須)
 - 運動機能・過剰課題・オーバーワーク・自分なりの工夫への配慮

4. 就労等のスタイルと職域開拓

- 就労のスタイル
 - 個人就労支援
 - グループへの支援
 - 特例子会社、企業独自の就労指導者の導入
 - エンクレープモデル
 - グループによる分担作業
 - 福祉工場
 - 施設外授産活動(就労前活動)
 - 授産施設等(施設内作業、職場実習)
- 働き方、働く場所・職域の発掘などの視点

発達障害者雇用の職場の声

- 成功例
真面目である、休まない、無駄口がない、手伝ってくれる、いつでもきちっと挨拶する、任された仕事は良くやる、性格が良い(素直)・・・
- 失敗例
挨拶・返事ができない、些細なことに時間がかかる、指示と違うことをする、何度言っても分からない、自分勝手、邪魔をする・・・

カウンセリングモデル支援

- 現在働いている人、診断をカミングアウトしたくない方などのご相談とご支援
 - 仕事場面での様々な不安、失敗
 - 仕事内容の変化による不安
 - 周囲の方との関係(同期者が昇格・・・)
 - 働くイメージ作りへの支援
- 定期・不定期的に相談を実施
 - メール、電話、来所による相談
- 障害者雇用率のカウントには乗らない支援

《参考》高機能発達障害圏の症状例 AS診断の方の相談支援①

- 言われたことを3歩歩いた途端忘れる。→メモをする又、メモを渡してもらいたい
- 今までやっていたことと違うパターンの場合、やることは同じでも指示がほしい
- レジに返されたものを「売り場(→頭に入ってなかった)に戻しておいて」と言われ、さっきまで有ったカゴにもどした
- 自分の間違いが自覚できない場合、指摘するのではなく正しいやり方だけを教えてもらいたい
- 仕事をする時見本を見せてもらおう。やり方が正しいか一度見てもらいたい
- 何処まで丁寧にするのか、どこまでの範囲なら妥協できるか。
- 「コピー何枚」→何枚だったか忘れ引き返す。
- 見落としが多い。レジでの値引きシールなど

(続き)

- 丁寧にやりすぎ時間がかかる。
- 突然集中力が切れる。
- 細かく聞くので先回り、先に全部聞く。聞きすぎる。
- 何かミスがあると原因を突きとめようとする。なぜ間違えたのか知りたい→過剰になる。
- 余計なことをしてしまう。→自分が良いと思ったことを衝動的にしてしまう。
- 手順が違っていたらと思うとこわい。
- 「分からないと言えない」何を言われるか不安
- やっている仕事が何時までかかるか見当がつかない。
- 自分の考え方がうまく伝わらない。行動と考えが違うので誤解されやすい。説明すると言いつけになる。
- 優先順位を付けられずに困る
- 情報が多いとパニックして真っ白になる

相談支援例②(ADHD診断:20代女性)

- 手に職をつけたいと専門学校に通い資格を取得(20代、女性)
 1. 来所とメールによる相談支援
 2. 面接等の発言の整理
 3. 新しい職場での息抜きの時間
 4. 指示の受け方(メモの取り方)
 5. 意見を求められた時の応え方(箇条書形式)
 6. 障害(ADHD)を伝えるかどうか
 7. サービス残業の軽減
 8. 休日の過ごし方ボランティアのできる場所、メールのできる友達、ソーシャルスキルの学習

(続き)「不安」の検証

- 新しい職場でどのように接するか
- 定時を過ぎ「帰ってもいい」と言われても他の人が仕事をしているので「やる気がない」と思われないか
- 指示を受けてうまくできないので不安
- 「『～が分からない』と言えない」何と言われるか心配
- 指示が減った→呆れられていないか
- 早く帰りたいが帰れない(睡眠時間が取れない)
- 自分の仕事の適正が分からない
- 仕事が上達しない(時間がかかる)、仕事を変えたい...

相談支援例③(AS診断:30才代男性)

- 相談:
 - ・ 職場の同期は昇格したが自分だけは係長である
 - ・ 最近部下からクレームが多い
 - ・ 職場でカミングアウトする必要があるか
 - ・ 妻の病気と、自身の障害の理解について
 - ・ 医療機関(医師)のコメントについて
- 支援:
 - ・ 職場における仕事の状況の把握から適職についての話し合い
 - ・ 仕事のミスについての助言
 - ・ 相談相手の有無(カミングアウトはしない方向で)
 - ・ その他気になる状況で連絡を戴きながら相談継続

発達障害を持つ方の支援・留意点

- 能力の高い低いだけでは支援は決定されない
 - ・ 能力の高さにより自分なりの行動で苦手を補う(努力)
ただし、一部のスキルを持つがゆえに誤解も招きやすい
 - ・ 知的障害者の支援スキルが生かされる場合と、そうでない場合がある
 - ・ 苦手な部分は代替のスキルの活用、又は補う(支援)
- LDやADHDや他の診断があっても社会性(関係性)、コミュニケーションの苦手さがある場合には十分留意する
 - ・ 個(本人の苦手さ)に合ったルールや約束の必要性
 - ・ 説得や情だけでは支援できないことが多い(専門的な支援)
 - ・ 運動機能も働くことの重要なポイントになる事に留意
- 不安に対する配慮は重要
 - ・ 苦手さのある人は負の経験が多く、不安要素になりやすい
- 長年に渡るサポート体制必要(変化に対応する)

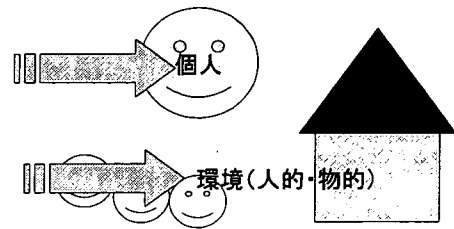
就労支援の課題(支援の視点から)

- 総合職業センター研究協力(インタビュー)
 - ・ 現状制度の活用範囲
 - ・ 軽度知的障害対策一ボーダー領域への対応
 - ・ 就職者を退職させない相談支援体制
 - ・ 一般～障害者の中間的な相談支援機関
 - ・ PDD等の発達障害者の専門的支援
 - ・ 発達障害者の支援に合わせて、近接領域の方の支援の整理が必要ではないか
- 合わせて、就労支援機関の職員の増員と支援技術の向上など

アウトリーチ(訪問)による 発達障害児療育の試み

国立秩父学園
桑野 恵介

発達障害児療育とは・・・



個人に対する働きかけ

ADL指導・認知学習指導・コミュニケーション
指導・余暇支援・行動問題対策・・・



要点は

- 社会的に適切な行動を増やす
- 社会的に不適切な行動を減らす

環境に対する働きかけ

親指導・援助者(教師・施設職員等)指導・環境査定・環
境調整・・・



要点は

- 社会的に適切な行動が起こりやすく、不適切な行動が起こりにくい接し方をする
- 社会的に適切な行動が起こりやすく、不適切な行動が起こりにくい物理的環境作りをする

療育をどういう場面で行うか

- 施設や指導室内などの統制環境下
(Institution based)



- 家庭や学校、地域などの日常生活場面
(Community based)

施設(統制環境下)における療育の利点

- 療育に不要な刺激や要因を排除できるため、指導や援助がしやすい。
- 不適切な行動を引き起こす刺激をあらかじめ排除できる。
- 場所が固定されているため、移動のコスト(労力・時間・経済)が最小限で済む。
- 安全管理を行いやすい。 等々

→ いずれも主に支援者側の利点